

日本オペレーションズ・リサーチ学会

1961年度総会記事

1960年度事業報告並びに決算報告, 1961年度事業計画並びに予算案につき, 担当理事より説明があり, 報告通り承認された。

1) 1960年度事業報告

1. 1960年度の主なる会合は次の通りである。

(1) 4月23日, 24日に1960年度総会並びに第7回研究発表会を早稲田大学において開催した。翌25日, 川崎製鉄株式会社千葉工場の見学を行なった。

(2) 国際統計会議(ISI)開催に伴う関連事業として特別記念講演会並びに特別セミナーを開催した。即ち,

(イ) 特別記念講演会は5月28日に朝日新聞社講堂で R. A. Fisher 並びに Mahalanobis 教授の講演を開催した。

(ロ) 特別セミナーは6月13日, 14日に東京会館で Lindley 教授, Wold 教授, Hamaker 教授, C. R. Rao 教授のセミナーを開催した。

(3) 11月5日, 6日に第8回研究発表会を神戸大学経済学部において開催した。翌7日奈良方面に懇親旅行を行なった。

2. 刊行物

「経営科学」3巻4号, 4巻1, 2, 3号を発行した。4巻4号は4月末迄に発行の予定である。

「JORSJ」Vol 2, No. 4, Vol 3, No. 1~2合併号, No. 3を発行した。Vol 3, No. 4は4月末迄に発行の予定である。

3. 海外との交流

(1) 9月, IFORS 第2回総会(Aix-en-Provence, France)には日本代表として森口繁一, 河田龍夫, 近藤次郎, 野本明の4氏が出席した。

(2) 1961年1月, 国際OR学会連合(IFORS)の正式会員として承認された。

(3) 1961年から IFORS が刊行する OR 文抄献録の専門誌 IAOR の刊行に協力するため IAOR 委員会を設置した。

4. 法人化の準備

IFORS が日本で近い将来開催されることが問題となって来たので法人化への準備を始めた。

5. 会員の状況

1961年度における会員数は次のようである。

会員の状況

	通常会員	学生会員	賛助会員
1959年度末	775	0	55社(63口)
1960年度退会	189	0	1社(1口)
1960年度入会	72	28	7社(10口)
1960年度末	658	28	61社(72口)

2) 1960年度決算報告

1. 1960年4月21日開催された評議員会の承認に基き, 1960年4月1日から1961年3月31日までに至る会計年度内の収支を別紙のとおりまとめた。

2. 未収金の件

1960年度納入を受けるべき会費中未納入額を未収金として計上した。

3. 過年度分未収金の件

1959年度から繰越した過年度分未収金1,405,000円中回収の見込のない1,081,200円を1961年4月21日の評議員会の承認を基に償却した。

貸借対照表

1961年3月31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
		前期繰越金	660,403
現 金	19,197		
振替貯金 小切手口座	16,589		
振替貯金	5,655		
当座預金	11,046		
普通預金	74,608		
未 収 金	263,618		
		前 受 金	18,700
		未 払 金	28,400
		当期運営残高	△316,790
合 計	390,713	合 計	390,713

4. 未払計上の件

費の未払金 28,400 円を未払金として計上した。

既発行の会誌「経営科学」第4巻第3号の編集

自1960年4月1日
至1961年3月31日 収支計算書

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
刊 行 費	958,263	入 会 金	32,100
大 会 費	194,823	会 費	1,007,400
通 信 費	115,509	過年度会費	203,400
通信発送費	89,080	本年度会費	804,000
事務通信費	26,429	賛 助 会 費	640,000
会 合 費	89,610	雑 収 入	274,830
印 刷 費	97,065		
事 務 費	218,958		
事 務 費	163,203		
消 耗 品 費	55,755		
編 集 費	153,021		
手 数 料	14,595		
雑 費	62,618		
I S I 費	366,658		
小 計	2,271,120	小 計	1,954,330
		前年度繰越金繰入	316,790
合 計	2,271,120	合 計	2,271,120

過年度分未収金 120,400 円

1961年3月31日現在(円)

年 度	1959年度 末 高	1960年 末 回収償却高	1960年度 中の回収高	1960年度 末 残 高
1957年度	505,100			3,600
1958年度	514,200	1,081,200	203,400	17,800
1959年度	385,800			99,000
計	1,405,000	1,081,200	203,400	120,400

1961年度会費未収金 263,618 円

会 員 種 別	未 収 金
通常会員会費	243,018
学生会員会費	600
賛 助 会 費	20,000
合 計	263,618

2. 刊行物

名簿を発行する。

JORSJ および経営科学を充実し、各年4回発行する。

3. 支部の設置と会員拡充

中部地区に新たに支部を設置し、また従来にも増して会員の獲得とくに賛助会員の拡充を計る。

4. 海外との交流

イ. IFORS に正式に参加する。

ロ. IAOR に協力する。

ハ. 海外より来訪する OR 専門家と接融の機会をつくる。

ニ. 1961年 ISI ならびに TIMS 総会に代表の

3) 1961年度事業計画

1. 研究発表会

春秋2回開催する。春季は東京において、総会と同時に行ない、秋期は地方において行なう。

派遣を計画する。

ホ. 欧文雑誌と海外文献との交換を計る。

5. 法人化の準備

社団法人への準備をすすめる。

4) 1961 年度予算

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
通常会員会費(550名)	660,000	刊 行 費	1,320,000
学生会員会費(50名)	30,000	大 会 費	250,000
入 会 金(110名)	33,000	通 信 費	160,000
過年度分未収会費	204,000	通信発送費	130,000
賛 助 会 費	1,700,000	事務通信費	30,000
雑 収 入	250,000	会 合 費	65,000
		印 刷 費	112,000
		事 務 費	246,000
		事 務 費	186,000
		事務消耗品費	60,000
		交 通 費	23,000
		編 集 費	258,000
		払込料金等手数料	20,000
		関西支部経費	50,000
		I F O R S 会費	50,000
		研究討論会費	100,000
		雑 備 費	16,000
前 期 繰 越 金	127,095	予 備 費	334,095
合 計	3,004,095	合 計	3,004,095

5) 1961 年度評議院選出

1961 年度の評議員は次の 58 名が選出され、決定いたしました。

朝尾 正	朝川 岳二	石川 馨
弥永 昌吉	植木 繁	上田 輝雄
梅田 俊雄	宇野 利雄	江崎 武
奥村誠次郎	小野木次郎	春日井 博
門川 清美	茅野 健	河田 龍夫
河村 知男	岸 道三	木田 経吉
国沢 清典	木暮 正夫	河辺 旨
古瀬 大六	小平 潔	小林 正次
小柳 賢一	後藤 正夫	近藤 次郎

佐治 信夫	城 憲三	関 和文
関 英男	高橋浩一郎	高橋 秀俊
高宮 普	多田 和夫	田村 市郎
富久 力松	中原 勲平	丹羽徳治郎
野田 信夫	橋本元三郎	東 秀彦
藤森 謙一	前田 活郎	増山元三郎
松浦 陽恵	松田 武彦	水谷 一雄
南川 利雄	宮崎 政義	宮沢 光一
村上 喜一	森口 繁一	山口 英治
山口 襄	山本 昌	横山 勝義
横山 保		

▶ ニュース ◀ 実験計画法のコロキアム

第 33 回 国際統計会議 (ISI) の会期中に平行して行なわれる。

8 月 29 日 △Sir Ronald A. Fisher の挨拶。

8 月 30 日 △R. C. Bose (ノースカロライナ大学)

“Some Ternary Error Correction Codes and Fractionally Replicated Designs”

△D. J. Finney (アバーディーン大学)

“Statistical Experience and Design of Investigations”

△M. H. Hotelling (ノースカロライナ大学) “未定”

△増山元三郎 (東京大学)

“Le Calcul des Blocs et ses Applications aux Plans d'Expériences”

9 月 1 日 △H. B. Mann (オハイオ州立大学)

“Main Effects and Interactions”

△Giuseppe Pompilj (ローマ確率研究所長)

“Analisi delle Medie”

△M. Roy (ノースカロライナ大学) “未定”

9 月 2 日 △W. J. Youden (米国規格局)

“Physical Measurements and Experiment Design”

△D. K. Chaudhury (ノースカロライナ大学)

“On Some Corrections between Balanced Incomplete Blocks Designs”

△Dominique Foata

“Sur la Construction des Plans Factoriels Fractionnés et Certains Codes correcteurs à l'aide des Caractères des Groupes Abéliens”

9 月 3 日 M. Nicholson (ノースカロライナ大学) “未定”

△Giampiero Landenna (ローマ確率研究所)

“L'Analisi Sequenziale di ABRAHAM WALD Secondo un'Impostazione Bayesiana”

9 月 5 日 Odall Aglio (パリ大学理学部)

“Blocs Incomplets Équilibrés Orthogonaux”

△Mlle Ulmo (製鉄研究所統計部長)

“Contribution à l'Étude de la Régression Linéaire et des Plans d'Expérience”

△R. C. Bose (ノースカロライナ大学)

“Orthogonal Latin Squares and Euler's Conjecture”

▶ ニュース ◀ 第3回 IFORS 大会について

ノルウェー OR 学会の招待により下記により開かれる。

1. 日時 1963年7月1日～5日
2. 場所 ノルウェー, オスロ大学
3. 準備委員会 フランス OR 学会(委員長: G. Kreweras 氏)
4. 注意 この会議の提出論文または議題については, 1961年12月1日までに各国 OR 学会に送附されたい。

IFORS の現状

国名	学会	会員数(有資格者数)	投票権
アメリカ	ORSA	3162(996)	31.6
イギリス	ORS	590(279)	16.7
フランス	SOFRO	778(160)	12.6
オーストラリア	AJCOR	95(43)	6.6
ベルギー	AGESCI	122(22)	4.7
カナダ	CORS	273(103)	10.1
オランダ	SOR	178(45)	6.7
インド	ORSI	44(40)	6.3
ノルウェー	NORS	71(60)	7.7
スウェーデン	SOAF	97(62)	7.9
日本	ORSJ	860(135)	11.6
		6270(1945)	122.5
	前年度	4243(1709)	107.6

編集後記

また今年も第1号が9月になった。モース教授一行の来日の関係もあったが、年度末に手持原稿を全部はき出してしまう関係で、なかなかつぎの原稿を集めることがむずかしいのもその大きな一因である。毎回研究発表会には20件前後の論文が発表されるのだからこれが全部掲載されるならば問題はない筈である。折角発表された以上は論文を印刷しておかないと後日何にもならなくなることも起るから必ず投稿されるよう会員諸兄に切にお願いする。

いままで文献抄録を充実するなど努力してきたが、それにもまして学会誌を読み易く親しみ深いものになりたいといつも刊行物委員会では考えている。

幸い、今年度首に一会員から提案があって、この際思い切って編集方針を変更し、ある程度定型化することにした。その一つのあらわれが“編集者への手紙”の欄である。質問・問題の提出といった形でどしどし利用していただきたい。論文というところまでいってなくても面白いものをここで取り上げるようにしたいと思っている。さらに展望という形でできるだけ各方面のOR実施例や、せめて問題についてその方面の専門家に解説をお願いすることになっている。

最後に近頃国際会議に出席する会員が段々ふえてきた。そういったニュースもできるだけ集めてみたいので、会員で出席される方はもちろん、情報をお持ちの方は積極的にお知らせ願いたい。